

保険者名●●●	保健事業カルテ
事業名	○○○○事業
背景	
対応する健康課題	保健事業カルテの左側は、 既に策定されている「データヘルス計画」から転記してください。 追加事項があれば補足して構いません。
事業目標	

	対象者	方法	体制
2020年度の実施内容	2020年度に実施した対象者・方法・体制を記入します。		

	指標No.	評価指標	目標値					実績値						
			2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)
アウトカム指標 (成果を測る指標)	1													
	2													
	3													

	対応する指標No.	分類	やり方の工夫	工夫をした理由	良かった点・苦労した点
アウトカムを上げる工夫			工夫の分類を記号で選択します。 a.意識づけ b.行動変容支援 c.継続支援 d.プログラムの質の向上 e.その他		

	指標No.	評価指標	目標値					実績値						
			2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)
アウトプット指標 (実施率を測る指標)	1													
	2													
	3													

	対応する指標No.	分類	やり方の工夫	工夫をした理由	良かった点・苦労した点
アウトプットを上げる工夫			工夫の分類を記号で選択します。 a.周知 b.勧奨 c.環境整備 d.参加支援 e.業務効率化 f.その他		

評価指標の設定、実績値についてのコメント	コメント欄はヒアリング後に支援者が記入します。	工夫についてのコメント
----------------------	-------------------------	-------------

●● 健保組合 保健事業カルテ

2020年度

事業名	特定保健指導
背景	適用事業所は複数の職種から構成されており、夜勤を含む働き方となっている。男女の割合がほぼ同じ、平均年齢は低い。また、勤務時間がばらばらな職場が多いことから、職場全体での取組が難しい。
対応する健康課題	平均年齢が低いことから血圧や血糖の有所見率は全国の健保組合に比べて低いが、若年から食生活が乱れており、内臓脂肪症候群該当者の割合は増加傾向にある。また、雇用の流動性が高く、社員のモチベーションの向上は事業所の課題となっている。
事業目標	特定保健指導を通じて食事習慣を改善し、メタボリックシンドローム予防を図る。

	対象者	方法	体制
2020年度の実施内容	特定保健指導対象者	・健診結果票（3年分の経年変化をグラフ表示）に受診券を同封 ・職場での実施に、健診機関で健診当日の実施を加えた。	・委託事業者 ・職場での実施は民間への委託。健診機関には特定保健指導のための説明会を実施、マニュアルを提供

	指標 No.	評価指標	目標値					実績値							
			2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	
アウトカム指標 (成果を測る指標)	1	内臓脂肪症候群該当者の割合			24%	23%	22%	21%	23%	25%	25%				
	2	週3回食事記録している割合			80%	80%	80%	80%	-	-	70%				
	3														

	対応する指標 No.	分類	やり方の工夫	工夫をした理由	良かった点・苦労した点
アウトカムを上げる工夫	1,2	b.行動変容支援	食事を記録するアプリを活用し、記録したことに委託機関からコメントしてもらった。健康課題や働き方の特徴を委託機関に共有し、参考にしてもらった。	食生活が乱れがちな勤務形態だから。	勤務時間帯に関わらず活用できた。
	1	b.行動変容支援	特定保健指導に参加しない場合には、歩数・体重を記録するアプリを勧めた。	不参加者を放置したくなかった。	

	指標 No.	評価指標	目標値					実績値							
			2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	
アウトプット指標 (実施率を測る指標)	1	保健指導実施率			36%	40%	45%	50%	33%	33%	40%				
	2								-	-					
	3														

	対応する指標 No.	分類	やり方の工夫	工夫をした理由	良かった点・苦労した点
アウトプットを上げる工夫	1	c.環境整備	健診機関と連携して、健診当日に面談するようにした。保健指導が健保からの要請であることを健診機関から伝えてもらった。	保健指導の不参加者を減らしたかった。	・実施率が上昇した。
	1	d.参加支援	事業目標を健診機関にも伝え、途中脱落防止のために進捗状況を健診機関から報告してもらった。	脱落者への対策がなかった。	・脱落予備群に健保から働きかけたが、継続してくれないことが多かった。
	1	b.勧奨	部署ごとの参加率を可視化し、事業主から参加を促してもらった。	参加率の差が部署によって大きかった。	・部署での業務調整が重要なようだ。
	1	e.業務効率化	階層化結果を2週間ごとに委託機関に提供した。	健診から時間を空けないため。	

評価指標の設定、実績値についてのコメント

工夫についてのコメント